

八角堂よみがえる彩色



保存修理工事が完了した八角堂



堂内を見学する参加者たち

平成26年から5年にわたって実施してきた八角堂(国指定史跡)の保存修理工事が完了し、5月25、26日の2日間、堂内などを一般公開しました。

八角堂は、慶長12年(1607年)に豊臣秀頼によって再建され、元禄11年(1698年)に再興された隔



彩色がよみがえったボタンや唐草などの文様

保存修理終え一般公開

切形八角形の仏堂。もとは男山の清水水八幡宮境内にありましたが、明治の神仏分離令により現在地(八幡大芝)に移築されました。

一般公開には2日間を通して770人が訪れ、八角堂の外観や堂内を見学。現地では工事担当者による説明も行われ、参加者たちは、屋根の葺き替えや薄くなった塗装の塗り直しなど、工事概要の説明を興味深そうに聞いていました。

また、この工事で堂内のボタンや唐草などの文様に彩色が施されたことも判明し、調査を進めて復原。明治期の色彩もよみがえり、参加者たちは写真を撮るなどしながら、当時の美しさを取り戻した八角堂に見入っていました。

夫婦で訪れた湯川萬喜子さん(74)は「立派に、素晴らしい修復してもらえてよかったです。公開の機会にいろんな人に知ってもらえたらいいですね」と話していました。

香港の小学生と英語で交流

4月25日、香港にある順徳友好協会何日東小学校の6年生40人が中央小学校を訪れ、同年の6年生43人と交流しました。

中央小学校に40人

この交流は、京都府が推進する、次代を担う青少年の国際交流の促進などを目的とした、海外からの教育旅行の受け入れの一環として実施されました。

学校に到着した香港の小学生たちは、はじめに映像で市の観光スポットや、登下校から授業、給食、掃除など、中央小学校の一日の様子を学びました。

その後に行われた小学生同士の交流会では、お互いが英語で交流。自己紹介や好きな食べ物を質問するなどして会話をしたほか、お互いの国の言葉でじゃんけんをするなど、楽しみながら交流を深めていきました。



香港の小学生(左から1、2人目)とじゃんけんをする中央小学校の6年生たち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



ボートで救助した水難者に見立てた人形を陸に引き上げる消防署員たち

水難者救助の技術磨く

本格的な雨の多い時期を前にした5月15日~17日の3日間、消防本部が宇治川御幸橋付近で水難救助訓練を行いました。

同訓練は、水難現場での救助活動等の技術の向上を図ることを目的に毎年実施しています。

訓練では、宇治川で人が流された想定し、3人1組でボートに乗り込んだ消防署員たちが、水難者を捜索。上流から流されてきた水難者に見立てた人形を発見すると、迅速に近づいて

宇治川で消防本部

救出したほか、陸上から遠方の水難者を救助するための救命浮輪を発射する、空気式救命索発射銃の操作訓練も実施しました。

また、16日には、八幡警察署、京都府警察本部航空隊との合同訓練も実施。現場指揮本部を設置して情報を共有しながら、消防署員はボートで水上、警察署員は陸上、航空隊員はヘリコプターで上空から水難者を捜索するなど、水難事故発生時のお互いの連携を確認していました。

福祉体験で広がる安心の輪

住民の福祉活動の輪を広げようと「みんなで作る福祉のつどい」が5月18日、文化センターや市役所前広場で開催され、約500人の来場者がさまざまな福祉体験をしました。

このイベントは、だれもが住み慣れた地域で、安全で安心して幸せに暮らせる地域社会を実現しようと、同実行委員会(主管:八幡市社会福祉協議会)が主催し、今回

で10回目を迎えました。

会場には、車いすや手話、要約筆記などの福祉体験コーナーを設置。車いす体験では、来場者たちが車いすに乗って、段差や急な曲がり角があるコースを走行し、操作方法や通行が難しい箇所などを体感しました。

また、段ボールハウス作りや竹を使った工作教室、京都八幡高校ボランティア部による手作りゲームなど、子どもが楽しめる

プログラムも行われ、来場者たちは楽しみながら福祉の輪を広げていました。



車いす体験をする来場者たち

車いすや手話、要約筆記